

街道の駅からの小さな旅

てくてくてくてくてくて

甲斐のくに

—第11駅—身延(雨畑編)



早川町雨畑は
700年もの長い歴史を持つ「雨畑硯」の里。
かつて「硯島村」と村名が付けられたほど
硯の産地として名声を博し、
「雨畑硯」は文人墨客に愛用されるブランドとなりました。
古き良き日本の原風景がそこかしこに残る雨畑の集落。
その伝統と文化に触れながら、
豊かな自然に囲まれた町並みをてくてくと…。



雨畑地区へは、JR中央線・甲府駅からJR身延線に乗り換え身延駅で下車。
身延駅から早川町乗合バス(奈良田温泉行き)に乗り、大島バス停で下車。
大島～雨畑間は予約制の乗合タクシーで。

[予約先]
(有)角瀬タクシー／TEL. 0556-45-2062
※予約は前日の午後7時まで

06



正徳寺

明応5(1496)年に日意上人が開山したといわれている。ここで得度した日謙上人に、少年時代の石橋湛山(第55代内閣総理大臣)が預けられていたという。

07



六社神社

源経基を祭っている。春祭りや秋祭りも地元住民で盛大に行われている。隣接する公民館には桜の古木があり、その根元には若者が力試しをした「力石」もある。

08



見神の滝

落差約40メートルの直瀑(ちよくばく)。2段目の滝つぼに金があるといわれ、その昔、何人も若者が金を取ろうとしたが断崖絶壁のため失敗したとの伝説が残る。



てくてく
歩きの
途中で...

チャーミングなお母さんたちに出会いました。「サンショウの葉っぱに、しらす干しを入れて、しょうゆで煮るんだよ」と摘みたてのサンショウを抱えてニコリ。

坂道もなんのその、よく歩くのが元気の秘訣。^{ひけつ}「毎年8月15日は雨畑湖で花火を上げるよ。きれいだから見においで」と話してくれました。

01

ヴィラ雨畑



硯島小・中学校の跡地を利用して建てられた、自然の恵みを満喫できる宿泊施設。地元産の旬の食材やジビエを使った料理が楽しめる。体育館も併設。

02

すず里の湯

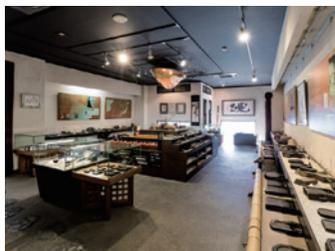


ヴィラ雨畑にある温泉。宿泊者でなくとも日帰り入浴の利用ができる。館内はしっとり落ち着いた雲田気で、女湯には露天風呂がある。

03

硯匠庵

雨畑硯の里



硯硯や古文書が展示され、雨畑の歴史も学べる。硯作りなどの体験や職人技の見学ができるほか、雨畑硯やブラックシリカなどの販売もしている。

04

雨畑湖のつり橋



一度に渡れるのは5名まで。スリルと絶景が楽しめる人気の散策スポット。豊かな自然が織りなす四季折々の眺めも素晴らしい。

05

本村集落



かつて雨畑硯の生産拠点であった本村集落。今でも静かな町並みの中に当時の看板や店舗が残る。繁栄した時代に思いをはせながら歩きたい。

雨畑湖。
美しい湖面に映る、
四季折々の風景。





雨畑湖の底には、かつての町並みの一部が静かに眠っている。エメラルドグリーン湖面にさざ波をたてながら吹きゆく季節の風を感じていると、雨畑の里の歴史の声が聞こえてくるようだ。毎年8月15日に開催される雨畑湖上祭では、大輪の花火が夜空を彩り、その音は山々にこだまするといふ。長い歴史の中で、郷土の文化に誇りを持ち続けてきた人々の思い、そして雨畑湖を取り巻く風景。ここは大切なものを思い出させてくれる場所だ。